

知の市場

有志の力を結集して新しい教育の在り方を探る (年頭所感に代えて)

知の市場は社会の全ての人々に学びの場を提供しようとする世界的な潮流の先駆けである。2004年に開講以来、今や毎年全国40か所近い拠点でおおよそ80科目を開講している。1科目は原則2時間授業15回で構成され、2013年度までの10年間に延べ7,000名を超える講師の参画により21,000名を超える人々が科目を受講している。知の市場は実社会に根ざした知の世界の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のため、自立的に行き交い、自律的に集う場である。この自由で開放的な学びの場の主役は、今や、ボランティア精神に満ちた人々である。

ここに、知の市場有志学生実行委員会が執筆した一文を、知の市場の今後の姿を象徴する一里塚として掲載し、年頭所感に代える。

知の市場
会長 増田優

(驚きに満ちた高水準の学びの場)

会社社長の新井曜子さんは、主婦業や母親の介護の傍ら、知の市場の講座を受講した。たまたま自社の事業に関係が深く、個人的にも興味のある化学物質総合管理を体系的に学ぶことができそうな科目があるのを知り、勤務時間後、毎週木曜日の18時半から2時間、東京丸の内の会場で受講した。講師はこの分野でよく知られている経験豊かな専門家で、理論だけを教える学者とは一味違っていた。現場で苦労を重ねているだけに講師が発する言葉の一言、一言に重みがあり、非常に充実した講義だった。

後に、参加者の受講料が無料であるだけでなく、講師も事務局もボランティア、知の市場の趣旨に賛同する大学、企業、消費者団体など様々な組織が教室も提供していることを知った。

(互学互教・現場基点・社会学連携の理念)

知の市場の講師は、産業界、専門機関・研究機関、消費者・市民団体、大学・学会、政府・公共団体などから自主的に集まったボランティアで、高い意識に支えられている。そして、多忙な中、毎週授業に駆けつける熱心な受講者との間に論議が巻き起こる。そこにはお互いに学び合い教え合うという現場を起点とした新しい社会と学びの連携がある。

4歳の男の子と1歳半の女の子の母親で弁護士の栗谷しのぶさんは、仕事や子育ての傍ら、よりよい環境法制づくりに意欲を燃やしている。知の市場で受講者として勉強する一方で、現実の判例などを下に環境法に関する科目を開講し同じ弁護士の配偶者とともに講義を担当している。まさに互学互教と現場基点のよき例である。

(多様にして厳しい自己研鑽の機会)

知の市場は、総合的でかつ実践的な学習機会の提供、十分な情報提供と受講者の自由な科目選択、大学や大学院に準拠した厳しい成績評価などを基本方針にしている。当初は化学物質や病原菌がもたらすリスクに関する科目が多かったが、医農薬や放射線、食品や製品、労働や社会の安全などに分野が広がり、今や産業、金融、法律、経済、環境、エネルギー、地域、国際そして技術革新に関する科目まで幅広い分野で開講されている。

講義内容は大学院レベルで高いが、実践に即して分かり易い。その分野を専門としない受講者にも受け入れられるように言葉一つにも工夫がこらされ平易に進められている。しかし受講者は授業毎に15回の小レポートと最終レポートの提出が求められるなど厳しい受講姿勢が求められる。そのため、合格率は6割であるが、修了証を手にしたときの達成感は何物にも代えがたい。この厳しさに挑戦する高い志を持った受講者が引きも切らない姿に日本社会の底力を感じる。

(社会人有志と学生・院生が支える事務局)

大学の学生・院生や知の市場の趣旨に賛同する人たちが、有志学生実行委員会を形成して講座の開設や運営、広報や募集の実務、受講者や講師への支援など必要な事務局機能を担っている。それぞれ日々事務局に駆けつけて、40を超える開講の労をとる機関や50を超える講義を組織する機関そして多数の講師陣と連絡を取り合っている。毎年2月に開催される年次大会や毎年6月と12月の2回開かれ知の市場の規約や開講科目の審議などを行う知の市場協議会や評価委員会の準備にも余念がない。

学生・院生の他、新井さんと同様に受講したことを契機にして有志実行委員会に参画した荒井優紀子さんや藤田千恵さん、栗谷さんと同じように講師を務めたことをきっかけにして加わった岡田康さんなどなど、皆、多彩な経験を有している。さらに知の市場に賛同する現役の企業人なども有志実行委員会に加わり、真剣な作業の中、賛同者から差し入れられたミカンや菓子を食べながらの打ち合わせなど、事務局には温かい時間が流れている。

こうして知の市場は、退職したが何か社会の役に立つ事をしてみたいとの思いを持つ人々に良い機会を提供している。そして、これから就職を控えた学生・院生にとっては、実社会で長年活躍してきた経験者と同じ目線で協働作業をするまたとない機会であり、実践的なインターンシップの場となっている。

(これからの知の市場)

知の市場は、プロ人材の育成と高度な教養教育の接合及び社会人教育と大学・大学院など学校教育の連結に挑戦しつつ、現代社会と世界動向を理解するために必要な広範な教養を身に着ける自己研鑽の機会を提供することを目指している。今後とも受講者と講師の双方向コミュニケーションを強化しながら恒常的に教育内容の向上を図りつつ、多彩な人々との輪を広げてさらに開講分野を拡大し、多様な機関や組織との連携・協力のネットワークの拡充を一層進め、全国津々浦々に開講の拠点を設け、自己研鑽の機会の日常化と普遍化を推進していきたい。

そして、米国在住の渡辺和子さんなどさらに多くの方々の参画を得て多彩な力の結集を図り、知の市場の実行部隊としての有志学生実行委員会の拡充を図ってゆきたい。

2014年1月1日

知の市場有志学生実行委員会